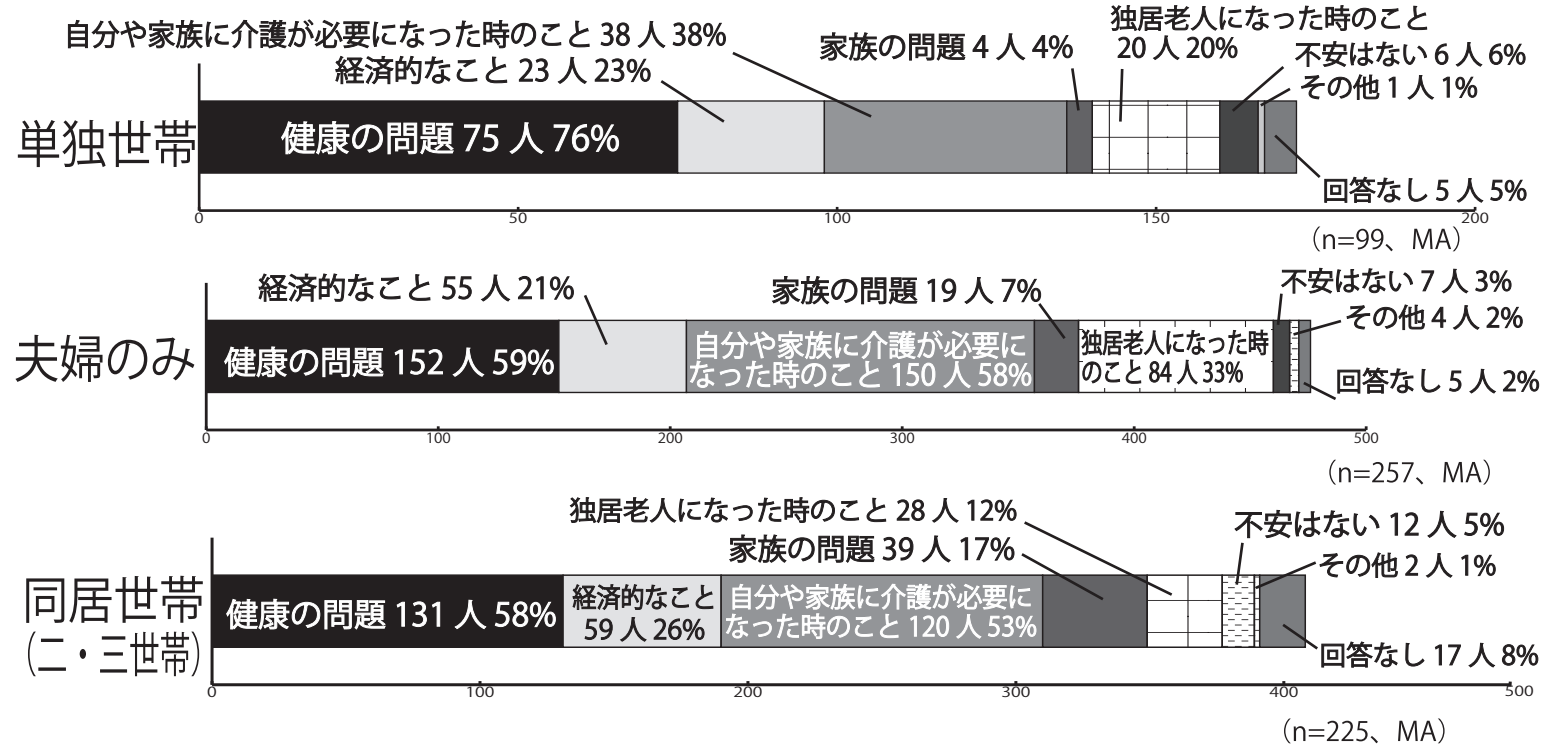


高齢者の余暇活動と心の充実度

今、一番不安に思うこと・世帯別 (Q23)

(n=581、「その他」の世帯構成は除く、MA)
※複数回答可



高齢者が現在行う余暇活動 (地域貢献活動・社会活動・市民活動・ボランティア等) (Q24)

(n=591、FA)

女性会活動、老人会、地域活動、自治会活動、居場所づくり活動、NPO活動、S型デイサービス、介護支援、病院ボランティア、災害ボランティア、公園や神社の清掃、寺院の御役、子どもたちの見守り、子育て支援、学習支援、青少年育成指導員、更生保護活動、食育推進、生活困窮世帯学習ボランティア、食事作り、ひとり暮らしシニアや子ども食堂の運営、宗教活動、スポーツ団体の役員業務、民生委員、若者就職支援サポート、劇団、図書ボランティア、美術館友の会、花の会ボランティア、コミュニティダンス、パッチワークの講師、樹木医として木の治療診断、農水省の農地・環境保全、音楽活動、日本語講師ボランティア、国際交流

今、一番幸せだと感じる時 (Q25)

(n=591、FA)

- ・健康でいられること
- ・家族、夫婦ともに元気でいられること
- ・夫婦で平穏に過ごしている時
- ・孫とふれ合っている時
- ・親子・嫁関係が良いこと
- ・家族と団らんしている時
- ・おいしいものを食べている時

- ・お酒を飲んでいる時
- ・ゆっくりとコーヒーを飲んでいる時
- ・一日何事もなく無事に過ごすことができた時
- ・旅行している時
- ・ボランティア（社会活動）など誰かの役になっている活動ができた時
- ・頼りにされている時
- ・ありがとうと言われる時
- ・趣味など自分の好きなことができています
- ・友人と話している時
- ・近所の人との交流
- ・ペットと過ごしている時
- ・運動をしている時
- ・予定もなくぼーっとのんびりしている時
- ・経済的に働く必要がないこと、ぜいたくしなければ生活できること
- ・週、月予定があり、生活リズムを感じる時
- ・デートしている時
- ・いつでも、どこへでも自由に行ける資金があること
- ・10か月程度父の介護で夜中3～4回トイレ介助を行いました。介護がいやということではなく、夜眠りについてから朝まで一眠りという時とても幸せを感じることがあります。
- ・一人で歩けること

「高齢者の余暇活動と心の充実度」についての概要

●高齢者が一番不安に思うこと(Q23)を複数回答していただいた。世帯構造別に見ると、「健康の問題」が最も不安なこととして、どの世帯にも共通する。さらに詳しく見ると、世帯構造ならの特徴が明らかとなった。単独世帯は76%と、夫婦のみ59%、同居世帯58%と比較しておよそ18ポイントも高い。その反面、「自分や家族に介護が必要になった時」のことを不安に思う割合は、単独世帯38%、夫婦のみ58%、同居世帯53%と、単独世帯が夫婦のみより20ポイント、同居世帯より15ポイント低い結果となった。一人暮らしをする高齢者は、家族に介護を頼めない分、健康については人一倍気に掛け、自分の介護問題については心を決めている人が多い様に感じる。一方、夫婦二人暮らしの場合は、配偶者の介護問題を心配し、さらに「独居老人になった時のこと」(33%)を心配する傾向が高いことが分かった。同居世帯の特徴としては、「独居老人になった時のこと」(12%)への心配が低い代わりに「家族の問題」(17%)と「経済的なこと」(26%)が他より高かった。

●高齢者の余暇活動について(Q24-2)地域貢献活動、社会活動、市民活動、ボランティア活動など、具体的に挙げていただいた。その結果、(1)地域貢献活動(公園や神社、寺院の清掃、自治会活動など地域に根ざした活動)(2)社会活動(介護支援、病院ボランティア、図書ボランティア、日本語講師ボランティア、若者就労支援)(3)青少年育成活動(子育て支援、学習支援、一人暮らしや困窮家庭の子どもたちへの食事づくり)(4)国際交流活動、NPO活動(5)趣味の会(6)宗教活動と、36種以上の多種多様な余暇活動を楽しむ高齢者像が浮かび上がった。高齢者というと、ゲートボールに興じる姿しか思い浮かばなかった時代と大きく様変わりしていることが明らかとなった。

最後に●今、一番幸せだと感じる時はどんな時か(Q25)についてたずねた。健康でいられること、家族と団らんしている時、美味しいものを食べている時、頼りにされている時など、十人十色の回答が寄せられた。全ての回答にささやかな幸せを実感する様子が目に浮かぶ様である。

生涯現役、海の恵みを得て暮らす須崎の高齢者たち

下田市須崎地区 職業 漁業、民宿業
田中 政弘 さん(71歳) / 田中 きみ さん(71歳) ※取材当時

「須崎の人間で年金をあてに生活する人？ いないと思うよ」

— えっ！ホントですか？高齢者が年金を当てにしなくても暮らせるんですか？
取材の冒頭からすごい話になった・・・

「海に行けばノリ、ワカメ、ヒジキ、テングサ、貝、伊勢海老が獲れる。だから須崎では“おかず取り”って言うては、一年中、皆が何かしら海から採ってくる」

「海の仕事には年齢制限ないからね。90歳になっても元気なら、テングサを選り分けたり、ノリ摘みをしたり、ひじきを煮たりして、小遣い稼ぎができる所だよ」

「だから須崎の人はもっと海に感謝しなくてははいけないって、いつも思う」

— 漁師に定年はない。

まして黒潮が通る伊豆下田から八丈島に至る一帯は、日本有数の漁場である。キンメ鯛の水揚げも日本一だ。そして須崎には、豊富な海洋資源であるテングサ漁で得た資金を地域の人々で分け合いながら暮らす互助互恵関係を長年続けてきた歴史がある。

◆還暦を機に再び、漁師に

— 田中政弘さんは、漁家の出身。父親はカツオの突きんぼ漁の名手であり、母親は海女であった。しかし、若い頃は船酔いがひどく、漁師を断念。25歳から60歳までは、須崎漁民会館前で食堂を経営しながら、自宅で妻のきみさんと、民宿を経営してきた。

「60で繁盛していた食堂をやめたのは、年をとってもできる漁師をやりたいからだよ」

「親父は船頭で人と争うことが嫌いだったけど、自分は漁の駆け引きが一番になりたい人。動けるうちは、一生懸命働きたいね」



須崎地区の高齢者が行う海の仕事
5-9月の岡磯漁は船の上や磯で箱メガネを使って貝を採る。70代と80代の兄弟がサザエとりをする。

— 政弘さんは、冬から春はエビ網漁、夏から秋はカツオ、イサキ、カサゴなどを釣り、民宿の魚部門を一手に引き受ける。さらに民宿で出す野菜を育て、揚げ物などの調理も行う。

きみさんは、結婚してすぐ民宿を始め、宿の女将として長年、夫と民宿「浜屋」を切り盛りしてきた。その間、二人の娘を育て、舅と姑を看取り、やっと今年、夫婦でのんびり、11日間の船旅を楽しんできた。

◆次世代に託すのは、須崎の海洋資源を守り漁業を発展させること
夫婦二人の願いは、家族皆が元気で、家族がいつでも帰ることのできる“田舎の家”を次の代へと継承すること。幸い次女が若女将として繁忙期の民宿を支えるだけでなく、海女漁も継承することになった。

「須崎には昔の人が残した良い漁場がある。しかし、資源は根こそぎ採ったら終わりだ。GPSなど新しい技術力と若い人達の知恵と行動力で、さらに須崎の漁業を発展させてほしい」

— 最後にきみさんへ一言。

「妻には面と向かって感謝を言えないのが俺の性格だけど、いつも感謝しているんです」

2020年2月、田中政弘さんの訃報を受けた。満面笑みの漁師姿の遺影が海人としての誇りと満足感をたたえていた。ご冥福をお祈り申し上げます。

(取材 齋藤 典子)

人との関わりが宝物 ボランティア活動に励む

浜松市 無職(元 教職員)
黒柳 千穂子 さん(78歳) ※取材当時

— 浜名湖の自然豊かな三ケ日町に住む黒柳千穂子さん。かつては中学校の体育教師を務め、湖西市で初めて女性の小学校校長、三ケ日青年の家の所長を歴任した。定年退職後はボランティアでたくさんの活動に携わる生活を送っている。

「以前、三ケ日町の婦人会長を務めた時は、地域のことがわからなくて周りから叱られながらやりましたよ(笑) 地域協議会の委員を務めた時は、住民と行政とのつながりをコントロールする役目をしました。生涯学習クラブでは、子どもたちを対象とした活動をしました。土曜日の午後に、チラシを配布して会員募集をしたりして、休むひまなしでした。退職女性校長会にも所属してます」

— 現在は、おもに、国際女性教育振興会の事務局長、浜松市北区女性団体連絡協議会の会員、三ケ日町更生保護女性会の活動をしている。

「更生保護女性会では、子育てボランティアに取り組んでいます。児童館で赤ちゃんたちの面倒を見ています。北区女性団体連絡協議会は女性8人で立ち上げました。立ち上げ当初は資金が足りなくて、皆でポケットマネーを出し合いました」

◆女性教師の道を切り開いてきた教師時代

— 教務主任や教頭時代は女性教師を育てる活動をしたという。

「賃金は男女同じでしたし、管理職になんかならなくていいという女性は多かったです。嫌な思いはしたくないって。女性をできるだけ優位に立たせてやろうと思って、産休を取るように進めたり、学年主任にさせたりしました」

— 夫とは赴任先の中学校で出会った。夫の実家はみかん農家で義父母とも同居。仕事と家庭の兼ね合いでさぞご苦労があったのでは…?と問いかけや。

「家のことは義父母がやってくれました。農業をやらなきゃダメかなって思ってたんです。けれど、義父母は“あんたは学校で子供を教育しなくちゃならないんだから、教師を続けなさい”って言ってきて。義母が病んだ時の介護も義父がやってくれました。恵まれていましたね」

◆現在の生活 人に恵まれた人生

— 取材中「人に恵まれた人生だった」としきりに語った黒柳さん。ボランティア活動を行ってきた中でもその思いは強い。

「以前、退職女性校長会の関東ブロックの研修会で、自分の実践したことを発表したんです。内容は、教職のことではなくて北区女性団体連絡協議会で実践したこと、人との関わり方のこと。色々な活動をして、人と関わるのができて良かったなあって思います。人との関わりが宝物です」

— 夫に先立たれ、子どもたちも独り立ちした。ひとり住まいの黒柳さんは現在、年金と夫が残した蓄えで生活している。

「たくさんボランティア活動をしているから、働こうという気はなかった。暇がありませんでした」

— ボランティア活動の傍ら、裂き織やグランドゴルフを楽しんでいるという黒柳さん。最後に、今、不安に思うことはないか聞いてみた。

「近くに病院もあるし、不安はないかなあ…。それに、今はセコムがありますから(笑)」



黒柳千穂子さん

(取材 増田 朋恵)

仕事は生きがい 洋裁で生活を営む

静岡県 職業 洋裁リフォーム、洋裁教室
菅原 賀志子 さん(79歳) ※取材当時

「最初は洋服のリフォームを始めました。「洋裁を教えてください」という方がいらして、教えることになりました。それが平成15年からです。」

— そう語るのは、自宅で洋服リフォームと洋裁教室をしている菅原さん。洋裁はもともと結婚前にやっていた。「昔の女性は花嫁修業として、お料理、洋裁、お茶、お花と、皆様やってきているのではないのでしょうか」

— 現在、洋裁教室の生徒数は12, 3人。1週間に1回、または隔週で教えている。その傍らリフォームや仕立てを行い、1日中仕事をしている。「おかげでこの十何年風邪ひとつひいていません。健康は何よりありがたく思います。どこにも行かずに家にいるのが一番好きです。私、変わっているんです」

◆洋裁の仕事始める以前

— 現在はひとり住まいの菅原さんだが、かつては夫、子ども、義母と暮らしていた。2018年に亡くなった夫は県職員だった。洋裁教室を始める前、39歳からは義母とおでん屋を営んでいた。

「おでん屋を始めた理由は、義母や家族間で共通の話題が欲しかったからです。そして私は料理が好きだったので、もっと料理について勉強したいと思い、16年続いていたおでん屋を閉め、55歳で調理師学校に通い始めました。楽しかったです。

一年勉強して卒業が近くなった頃、義母に認知症が出始めました。調理師の免許を取って食べ物の商売をまた始めたかったけど、その後介護が始まったので、断念。洋裁リフォームを始めたわけです」

◆働く理由

— 現在は洋裁の収入と年金で生活をしている菅原さん。「生きていく上で大切なものは？」という質問に、「健康とお金ですね」とキッパリ答える。

「現在も働いている理由は、生活のためです。私は第3号被保険者でしたので。洋裁教室の生徒の皆様には安く提供しているし、ボロ儲けしようなんて思っていないから」

— 一方で「仕事をしている時が一番楽しい」と語る。

「仕事場にいる時は幸せです。生徒の皆様やお客様も来てくださる。想像しながら作業を進める、その過程が楽しい。それに、大変な仕事がうまくいった時やお客様に喜んでいただいた時、「仕事っていいなあ」って思う。大変な仕事でも、私を選んでくれたことに感謝です。私に与えられたものだと言っています」

◆手が動く限り続けたい

— 「脳がしっかりしてれば何でもできると思うんです」と話す菅原さんに、これから挑戦したいことを聞いた。

「娘がスマホを買ってきてくれました。でも忙しくてスマホを触っている暇がないの。スマホをマスターする時間が欲しい。で、スマホができるようになったらパソコンもやりたいなっていう気持ちもあります。

とにかく時間が欲しいです。仕事も、まあ…「いつまでやる」という考えはないけど、できる限り。手が動く限り。まだ79歳だから(笑)」

あとがき

本調査で見えてきたもの

21世紀に入り20年が経つが、今もって日本は性差別がまかり通っている。医学部入試、雇用問題、政策の場への登用、セクシャルハラスメントなど、など。なぜ、男女平等が遅々として進まないのか？その原因はどこにあるのか？長い間、女性は考え続けてきた。米国ではアジアとアフリカにルーツを持つ女性カマラ・ハリス氏が初めての副大統領になった。台湾では トランスジェンダーを公表する35歳のタン・オードリー氏がデジタル大臣として民間から起用された。この二人の活躍は世界中から期待を持って受け止められているが今後、日本は性による不平等の是正は進むのであろうか？

10年近く現代社会に潜むジェンダーの問題や格差社会の問題を大学生に教える中、ここ数年、男子学生のジェンダー観に変化がみられる。性による不平等に対し、「おかしい」と声に出す学生が増えてきた。彼らは結婚後、女性にもしっかりと働いてもらう代わりに家事、育児は当然、夫婦で行うものと考えている。一方、2021年正月の大学箱根駅伝で2位を走る選手の背に監督が突然、「男だろ！行け！」のゲキを飛ばした。結果、選手にスイッチが入り優勝を勝ち取った。画面越しに違和感を感じる人も多い光景であった。それは、日本にはまだ多くの社会的・文化的に作られた性別役割が存在し、性差別に晒されるのは女性のみならず、男性も同様であることを見せつけられた瞬間でもあった。

日本で「男女共同参画」が叫ばれて久しい。しかし、社会の動きは鈍い。まして家庭内における「男女共同参画」の進捗については、可視化されにくいことも重なり、実感が伴わなかった。しかし、今回実施した高齢者男女の生活実態調査から高齢者の就労及び経済状況と「男女共同参画」の実態が明らかになった。高齢者の就労においては、雇用の機会や雇用形態の面で男性優位の傾向がある。一方で「稼ぐのは男の役割」とする性役割に縛られる男性の方が高齢になっても就労に意欲的な傾向が見られる。さらに「働かない理由」の中には、雇用における男女格差と社会が高齢者の経験や能力を十分に活かしてきれていない問題がみえ隠れする。政府が高齢者の就労を推奨するなら、高齢者雇用の見直しを積極的に図る必要があると考える。

一方、家庭内の家事、介護といった無償労働が女性に重くのしかかる状況は、高齢になっても変わらない。しかし、男性も家事や介護を積極的に行い、「男女共同参画」を実践する家庭もある。この様な日本の性役割と性別による格差は、当然ながら高齢者の年金受給にも影響を及ぼし、高齢者の収入格差にも結びつく。県民一人当たりの所得額が高く、比較的豊かな静岡県においても、高齢者世帯の8割が年金だけでは生活ができないと回答する。しかし、高齢者の多くが健康や将来の介護への不安を抱きながらも余暇活動に生き甲斐を見出し、幸せな時間を送ることができていることも本調査から見とれる。

2020年は、世界的なコロナ感染により、働き方や家族との過ごし方に大きな変化がもたらされた。外出の自粛やリモートワークによって、家事や子育てを夫婦で行う機会が増えた家庭も多いことだろう。また新たに生後8週間以内の育休に限定した男性版出生時育休の取得を盛り込んだ「育児介護休業法」の改正案が可決したとの報道もある。また大手総合商社では、今後の企業発展には女性の活用が不可欠だとし、これまで不均衡であった総合職の男女割合を見直す方向に舵を切り替えたとの経済記事もある。他国の男女平等政策を指を咥え、眺めてばかりではいけない。まさにピンチをチャンスに!社会を変えるのは、今!まずは、高齢者を含め、家庭内から男女共同参画を始めてみたい。

最後に本調査にご協力をいただいた県内に住む669名の皆様、そして取材を受けていただいた4名の方々、本当にありがとうございました。心よりお礼を申し上げます。

(文責 齋藤 典子)

参考資料 出典

- (1) 内閣府「令和元年版高齢社会白書:家族と世帯」
https://www8.cao.go.jp/kourei/whitepaper/w-2019/zenbun/pdf/1s1s_03.pdf (2021.1.30閲覧確認)
- (2) 総務省統計局「労働力調査」
<https://www.stat.go.jp/data/topics/topi1260.html> (2021.1.30閲覧確認)
- (3) 内閣府男女共同参画局「男女別に見た1日当たりの生活時間の国際比較」
https://www.gender.go.jp/about_danjo/whitepaper/r02/zentai/html/zuhyo/zuhyo01-c01-01.html (2021.1.30閲覧確認)
- (4) 「何歳まで働き続けますか?理想は65歳、現実70歳 全国世論調査」
2020.1.4『朝日新聞』朝刊 朝日新聞データベース「聞蔵」II ビジュアル
- (5) 「静岡県県民経済計算長期時系列集計(昭和30年度-平成29年度)」
<http://toukei.pref.shizuoka.jp/toukeikikakuhon/data/tyoukijikeiretu/kenminkeizai.html> (2021.1.30閲覧確認)
- (6) 総務省統計局「平成29年(2017)家計調査報告」P24
http://www.stat.go.jp/data/kakei/sokuhou/tsuki/pdf/fies_gaikyo2019.pdf (2021.1.30閲覧確認)
- (7) 厚生労働省「平成31年度の年金額改定について」
<https://www.mhlw.go.jp/content/12502000/000468259.pdf> (2021.1.30閲覧確認)
- (8) 総務省統計局統計データ2019年(令和元)労働力調査平均結果の概要
<https://www.stat.go.jp/data/roudou/sokuhou/nen/dt/pdf/ndtindex.pdf>(2021.1.30閲覧確認)



(取材 増田 朋恵)